

防災あいずみ

平成31年 1月15日発行 第23号

発行元：藍住町総務課危機管理室

電話 637-3111

総合防災訓練を開催しました！

10月14日、「各家庭における自助の意識啓発」をテーマに町民体育館で総合防災訓練を開催しました。

この日は天候にも恵まれ、関係者を含む775人が参加しました。

会場では、水消火器を使った消火訓練、災害対策車両の展示、心肺蘇生法の体験、木造住宅耐震化の相談など防災に関する様々な訓練や体験コーナーのほか、婦人防火クラブによる炊き出し訓練を実施しました。

また、本町の訓練では初めて、消防士らによる災害時を想定した救助訓練を実施し、住民の皆さんに御覧いただきました。防災対策は、「自助、共助、公助」の3助の連携が基本であると言われています。特に地震災害発生時の初動段階では、自らの身は自分で守るという「自助」、地域の皆さまの協力体制という「共助」、このふたつが重要となります。

今後も、防災訓練を通じて防災対策の基本となる自助、共助の充実を図りたいと考えています。

本県においては、南海トラフ巨大地震や中央構造線・活断層地震の発生が懸念されています。もしもに備えて防災訓練に参加しましょう。



防災意識調査に御協力を！

防災意識調査は住民の皆さんの防災意識を把握し、今後の防災に関する各種計画や啓発活動の基礎資料の収集を目的に実施します。この調査は無作為で抽出した20歳以上の方、2千人を対象に実施し、選ばれた方には2月中に調査票を送付する予定です。

調査への御協力をお願いします。



津波避難訓練を開催しました！

11月11日、東小学校で津波避難訓練を開催しました。

この津波避難訓練は、「津波防災の日」の関連行事として、津波の浸水被害が想定されている勝瑞地区を対象に隔年で開催しており、関係者を含む205人が参加しました。

参加者は、自宅から避難所（東小学校）までの道のりを徒歩又は自転車で移動し、所要時間や避難経路の危険箇所を確認しました。避難所に到着後、町職員から体育館や防災倉庫の鍵を収納している「自動解錠鍵ボックス」や、防災倉庫の備蓄品について説明を受けたほか、浸水時の避難について学校長から校舎内の避難経路や避難場所の説明を受け、実際に校舎4階まで避難しました。また、会場内では消火訓練や心肺蘇生法、ロープワークなどの講習に参加しました。

昨年は、大阪府や北海道などで大規模な地震が発生し、甚大な被害が出ました。地震の発生は直前まで予測が難しく、数秒から数十秒前でなければ地震の発生を知ることができません。突然襲ってくる地震に対しては、普段から備えておくことが重要です。積極的に避難訓練に参加し、避難経路や危険箇所の確認をしておくとともに、家具の固定や感震ブレーカーの設置、非常持ち出し袋などを事前に準備しておきましょう。



新しく『馬木自主防災組織』が結成されました！



会長 山本 茂己 氏

大地震などの大規模災害による被害を防止し、軽減するためには、日頃から一人一人が防災活動に積極的に参加するなどの地域住民による組織的な活動を行うことが大切です。

このようなことから、総務課危機管理室では本町の防災体制の充実、強化のため自主防災組織の結成促進及び活動の活性化を図り、地域防災力を強化するとともに、災害に強いまちづくりを推進しています。

7月20日（金）馬木集会所で馬木東・南・西地区住民（32名）への自主防災組織の説明会を開催し、その後、規約、役員、班編成等が決定し、11月1日に山本茂己会長の下215世帯の組織として馬木自主防災組織が結成されました。

今後は、各種防災器材等の整備、防火・防災知識の普及啓発、地域の安全点検、防災訓練の実施などの様々な活動を行い、馬木東・南・西地区を中心とした「自分たちの地域は、自分たちで守る」という自衛意識と日頃からの防災意識の高揚を図り、地域が一体となった、災害に強い地域づくりが期待されます。

夏休み防災自由研究入賞者のお知らせ

今年で5回目となった夏休み防災自由研究には、町内各小学校から59点もの応募がありました。応募された作品は、実際に自宅から避難所までの避難経路と危険箇所の確認をしたものや、非常持ち出し袋の中身の見直し、防災食の調理方法の研究など、様々な視点から取り組まれていました。また自由研究を通して災害を身近に感じることができ、防災への関心が高まったという感想が多くありました。

平成30年度の入賞者は、次の皆さんです。

たくさんの応募ありがとうございました。

賞	学校名	学年	氏名
最優秀賞	南小学校	4	矢島 桃
優秀賞	東小学校	5	大草 芽衣
優秀賞	北小学校	5	中川 優依
入選	西小学校	5	岡 結那
入選	北小学校	3	安藝 虹乃
入選	南小学校	6	増岡 孝真
		4	増岡 実咲

(敬称略)



住宅火災を防ぎましょう！

冬は空気が乾燥し、住宅火災が発生しやすい季節です。

一人一人の意識が、火災を予防し、万一火事が発生した場合にも被害を最小限にとどめ、火災から尊い命と財産を守ることに繋がります。

「たばこ」「こんろ」「ストーブ」による出火原因と防火対策を確認しましょう。

	出火原因	防火対策
たばこ 	<ul style="list-style-type: none"> たばこの火種が可燃物に落下。 消し切れていない吸殻の不始末。 	<ul style="list-style-type: none"> 布団やベッドの上では吸わない。 吸殻は完全に消えているのを確認しよう。 火種を落とさないよう、安全な場所で喫煙しよう。
こんろ 	<ul style="list-style-type: none"> 火を点けたままの放置。 衣類への着火。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理中は絶対にこんろから離れない。 火が鍋底からはみ出さないようにしよう。 グリル内や換気扇は定期的に掃除しよう。
ストーブ 	<ul style="list-style-type: none"> 燃えやすいものが接触したことによる火災。 こぼれた灯油に引火した火災。 	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯物を乾かすために使用しない。 燃えやすいものから離れた位置で使用しよう。 給油する時は必ず消してから給油しよう。

もし火災が発生した場合、火が天井に燃え移るまでの間は、可能な範囲で初期消火に努めてください。ただし、火が天井に燃え移り、初期消火ができないと感じたら、迷わずすぐに避難しましょう。

自主防災組織の活動事例を紹介します

前回に引き続き、町内で活発な取組をされている自主防災組織の活動を紹介します。まだ自主防災組織を結成されていない地域では、今後の大規模災害等に備えて結成しましょう。

名田団地自衛消防隊

結成年月日：昭和51年4月1日

隊員数：49世帯



主な活動内容

- ・一斉清掃後に消火訓練を実施（多くの方が家族で参加し、意見交換ができる）。
- ・一斉避難訓練等の参加可能な町防災訓練へ参加。
- ・年2回総会を実施（実際に大災害に遭われた方の体験談等を参考に話し合いをすることで、災害について考える場としている）。
- ・消火器や火災報知機の設置を呼びかけたり、購入のあっせんを行い、各家庭の火災に対する備えを促進。

これらを中心に、結成以来40年以上の長きにわたり毎年活動を行っています。その背景には、結成後間もなく火災が発生し、初期消火を試みたもののうまくいかなかったことが教訓となっています。この火災では消防により消火が行われましたが、以後更なる資器材の整備や体制強化を図り、現在まで継続されています。

●自主防災組織を結成してよかったこと

毎年の消火訓練の実施により、地域内の消火器とホースの位置の共有ができていたり、老若男女問わず消火器の扱いを覚えていただいていることから、地域の防災意識の向上ができたことを挙げられました。継続した活動が功を奏し、昭和51年以来今日まで火災の発生を未然に防ぐことができます。

また、自衛消防に協力的な人が多いことからスムーズに運営できています。声かけのしやすい環境作りの構築も防災活動につながるため、地域にとって大きな効果をもたらしています。

●自主防災組織運営における課題と解決策

長く活動を継続しているため、マンネリ化が起きることが組織としての課題となっています。災害はいつ起こるか分からないため、再度気を引き締めて防災に取り組み、しっかりと備えたいとのことでした。

また、地域特性が抱える災害リスクとして、水害においては土地が低いと道路が浸水すること、火災においては家が密集している団地であることから火事が起こると隣近所に延焼して大火となってしまうことを挙げられました。対策としては、定期的な訓練の実施と町の訓練への参加で防災意識の向上を図っています。

最後に、今回の取材の中で、次のような御意見を頂きましたので、皆さんにも紹介します。

- 水害予防のための河川の整備・清掃
- 身近な範囲での防災訓練の実施

貴重な御意見ありがとうございました。今後の防災行政の参考とさせていただきます。

なお、町危機管理室や県の防災担当部局にて出前講座を承っております。実践的な消火訓練については、消防署に御依頼いただければ、各地域の防災訓練等に伺います。また、自主防災組織だけではなく、自治会を対象としても実施できますので、御希望の際は総務課危機管理室までお問合せください。